

【研究課題名】 478-2 下肢深部静脈血栓症の術前スクリーニングにおける D ダイマー値の有用性についての検討

【実施責任者】 麻酔科学教室 教授 川口 昌彦

【実施分担者】 麻酔科学教室 助教 新城武明
麻酔科学教室 医員 内藤祐介
中央手術部 助教 松成 泰典
中央手術部 学内講師 田中 優
集中治療部 准教授 井上 聡己
市立奈良病院 河野安宣
附属病院 病院長 古家 仁
中央臨床検査部 教授 岡本 康幸
中央内視鏡・超音波部 准教授 平井 都始子

【研究の意義】

周術期における深部静脈血栓(DVT)と肺静脈血栓(PTE)の発生頻度は増加しているといわれる。PTE は発症すると致死的となる疾患であり、その予防策は重要である。PTE の多くはDVT に起因するため、手術前にDVT の有無を検出することは重要である。DVT のスクリーニングとして、D-ダイマーが使用されているが、骨折や癌などでも上昇するため、その精度は未だ不十分といえる。DVT の確定診断として、下肢静脈エコーの有用性は高いが、コストや人的効率を考慮すると、必要な症例にのみ行うことが重要である。

【研究の目的】

術前検査としてのD-ダイマー値と下肢静脈エコーによる DVT との関連性について調査する。

【研究の方法】

研究デザイン：後ろ向き観察研究

研究対象者：2002年1月から2011年12月までに、奈良県立医科大学附属病院で全身又は伝達麻酔を施行された患者で、術前検査としてDダイマー及び下肢静脈エコー検査を施行されている患者。

データ収集とその解析法：D-dimer 値は中央検査部、下肢静脈エコーの結果の結果は中央内視鏡・超音波部室にてデータ抽出する。D-dimer 値及び下肢静脈エコーを有する患者を麻酔管理データベースと統合し、D-dimer 値、肺塞栓症リスク、DVT の有無の関連性の当院における現状を調査する。

検討項目：患者背景及び肺塞栓リスクにより 分類化した上で、D-dimer 値による DVT の検出能を検討する。

【研究機関名】 奈良県立医科大学 麻酔科学教室

【個人情報の扱い】

個人情報については、患者情報を外部ネットワークから遮断されたコンピューターで入力管理する。各症例で統計整理番号を割り付けし、統計学的処理は、患者ID、氏名、生年月日を削除し、別ファイルを作成したうえで、連結可能匿名化情報として、別のコンピューターにておこなう。

【本研究に関する問い合わせ先】

研究責任者：麻酔科学教室 川口 昌彦

〒634-8522

奈良県橿原市四条町 842

TEL 0744-22-3051